

プレスリリース（2025年9月29日）

オートリブと SUBARU が世界初のサイクリスト対応歩行者保護エアバッグを発売

2025 年 9 月 29 日 – 自動車安全システムで世界をリードする Autoliv, Inc. (NYSE: ALV、SSE: ALIVsdb、以下「オートリブ」) は、株式会社 SUBARU との共同開発により、世界初となる「自転車利用者および歩行者の両方を保護範囲とするエアバッグ」を開発しました。この革新的な「サイクリスト対応歩行者保護エアバッグ」は、交通弱者の安全性向上を目的としており、2025 年 4 月に日本で発売された SUBARU の新型フォレスターに搭載されています。



サイクリスト対応歩行者保護エアバッグが搭載されたフォレスター

この新しいサイクリスト対応歩行者保護エアバッグは、従来の歩行者保護エアバッグの第 2 世代にあたり、より広い範囲をカバーするよう設計されており、衝突時におけるサイクリストの安全性をさらに高めています。

車両の外部に設置されるこのエアバッグは、展開時にフロントピラー（フロントガラス両側の柱）上端まで拡大し、歩行者だけでなく歩行者に比べて頭部の位置が高いサイクリストに対しても、より優れた保護性能を発揮します。

株式会社 SUBARU 商品事業本部プロジェクトゼネラルマネージャーの只木克郎氏は次のように述べています。

「SUBARU が目指す死亡交通事故ゼロを実現するためには、市場環境毎の事故形態の違いにも目を向ける必要があります。特に日本市場は歩行者のような交通弱者との事故が多い事が特徴です。そういった背景の元、万が一の事故において、乗員だけではなく、衝突した相手も保護する安全装備として、歩行者保護エアバッグを積極的に採用してきました。

今回、新型フォレスターの歩行者保護エアバッグを開発するにあたり、その保護対象を拡大しました。サイクリストとの衝突事故の場合、車に乗り上げた身体の位置が高くなる傾向があり、頭部が車両のフロントピラーに接触

するリスクが高まります。これに対応するため、エアバッグの展開範囲を拡大し、容量も従来比約 1.5 倍に増やすことで、より広範囲を保護できるよう設計を見直しました。

この新しい歩行者保護エアバッグを、新型フォレスターの開発テーマの一つであった外観デザイン強化と両立させながら、高い信頼性と作動の安定性を確保できた事に対し、オートリブのご尽力に感謝いたします。」

オートリブ最高技術責任者であるファビアン・デュモン氏は次のように述べています。

「車内の乗員を守るのと同様に、車外の人々を守ることも極めて重要です。このソリューションは、より安全で持続可能な未来のために、モビリティ安全の向上にチャレンジし、モビリティに対する基準を再定義するという当社の取り組みを体現しています。世界保健機関(WHO)によると、交通事故による死者の半数以上が歩行者、サイクリスト、バイク利用者などの交通弱者です。こうした背景からも、革新的な安全技術の優先的導入が求められています。」

このサイクリスト対応歩行者保護エアバッグは、SUBARU の新型フォレスター日本仕様に初めて搭載されており、オートリブは今後、グローバル市場への展開も視野に入れています。

以 上

【本リリースに関するお問い合わせ先】

オートリブ株式会社 広報ブランディング部 六車（むぐるま）

E-mail: AJP-Comteam@autoliv.com

オートリブ グローバルについて

Autoliv, Inc. は、自動車安全システムをグローバル規模で提供するリーディングカンパニーです。当社は子会社を通して、世界中の主要自動車メーカー向けに、エアバッグ、シートベルト、ステアリングホイール（ハンドル）などの安全保護システムを開発、製造および販売しているほか、パイロセーフティ・スイッチといった電氣的な安全ソリューションや商用車向け安全ソリューションといったモビリティセーフティ・ソリューションも開発しています。オートリブでは、継続して先進的なソリューションを提供するために、モビリティ安全の向上にチャレンジし、モビリティに関する基準を再定義しています。

25カ国でビジネスを展開しており、13の研究開発拠点にてイノベーション、研究、開発を推進しています。約65,000人もの従業員は、「Saving More Lives（より多くの命を守る）」という当社のビジョンに真摯に取り組んでおり、どんな業務においても品質を最も重視しています。2024年度の売上高は、104億米ドルです。

オートリブ株式会社（オートリブ 日本法人）について

オートリブは1987年に日本でオフィスを立ち上げ、35年以上もの間、主に日本の完成車メーカー向けに自動車を含めたモビリティの安全ソリューション（エアバッグ、シートベルト、ステアリングホイールなど）の開発、製造、販売を行っています。日本のお客様の営業窓口としてグローバルでも重要な拠点であり、テクニカルセンター、生産工場（筑波事業所・中部事業所・広島事業所）、営業拠点を日本国

内に持ち、約2,000人の従業員が働いています。

2024年度の売上高は、1,277億1,900万円です。

さらに詳しい情報は、以下を参照してください。

www.autoliv.com オートリブグローバルサイト（英語）

www.autoliv.jp オートリブ株式会社（日本）オフィシャルコーポレートサイト（日本語）

www.instagram.com/autolivjapan オートリブ株式会社（日本）公式インスタグラム（日本語）

セーフハーバー（免責）事項

本文書には、歴史的事実ではなく、1995年の民事証券訴訟改革法にて定義される範囲内で将来の見通しに関する記述とみなされる記述が含まれています。そのような将来の見通しに関する記述には、オートリブまたはそのマネジメントが、将来起こるであろうと考えるまたは予想する活動、事象または展開を示す記述が含まれます。すべての将来の見通しに関する記述は、現時点での我々の期待、さまざまな仮定および第三者から入手したデータに基づいています。我々の期待と仮定は誠実に表現されており、それらには合理的な根拠があると考えています。しかしながら、そうした将来の見通しに関する記述が実現する、または正しいと証明される保証はありません。なぜなら、将来の見通しに関する記述は、本質的に既知または未知のリスク、不確実性およびその他の要因の影響を受けることになり、それらが、そうした将来の見通しに関する記述によって示されるまたは暗示される将来の結果、実績または成果とは実際には大きく異なる将来の結果、実績または成果をもたらす可能性があるからです。数多くのリスク、不確実性およびその他の要因が、将来の見通しに関する記述にて示される結果とは実際には大きく異なる結果をもたらす可能性があります。本書またはその他の文書に含まれる将来の見通しに関する記述について、当社は、1995年の民事証券訴訟改革法に示される、将来の見通しに関する記述に対するセーフハーバー（免責）の保護を主張します。また、当社は、法律にて要求される場合を除き、新しい情報または将来の事象を踏まえて将来の見通しに関する記述を公に更新または修正する義務を負いません。